

外注費を削るだけで終わらない、 社内に残すべき5つの能力

— 制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。

内製化で残したいのは、 次を判断する力。

顧客理解

相手の疑問と場面
をつかむ

企画判断

目的に合う内容
を選ぶ

品質確認

公開できる条件
を確かめる

進行管理

役割と期限を
つなぐ

成果学習

結果を次の変更へ
戻す

五つの力を、自社の運営に**少しずつ**残しましょう。

費用だけで比べると、見えない負荷が残る。

確認するコスト

- 社内で使う制作・確認の時間
- 機材・ツール・保管の費用
- 教育と引き継ぎの時間
- 手戻りや公開遅れの影響

外注費が減っても、社内負荷が増える場合があります。

費用と負荷を合わせて、**続けられる形**を選びましょう。

工程の所有率より、判断が残るかを見る。

残したい判断

誰に、何を、なぜ伝えるか

任せられる作業

専門撮影、編集、繁忙期の制作

共有する学び

何が伝わり、次に何を変えるか

外部を使う場合も、判断理由と確認結果を社内へ戻す流れをつくります。

作業を任せながら、自社の知見を育てられます。

五つの能力に、担当者と記録先を決める。

顧客理解

質問や現場の声を集める人

企画判断

優先順位を決める人

品質確認

専門情報と公開条件を見る人

進行管理

工程と期限をそろえる人

成果学習

事実と仮説を整理する人

兼務は可能です。判断の空白をつくらないことを優先します。

一人に集めず、チームで力をつないでいきましょう。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。

ショート動画屋さんは、広告、SNS運用、通販、営業、採用など目的の異なる動画を
200社以上・3,000本以上制作してきました。

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、複数人で速く品質を揃える制作フローを運用しています。

制作フロー（役割を分けて、速く品質を揃える）

ディレクター

目的・ターゲット・
企画の方向性を
決める

構成

台本・構成案を
作成する

撮影

構成に基づき
撮影する

編集

カット・テロップ・
BGMなどを整え
仕上げる

内製化支援での引き継ぎ

実際に制作へ携わる担当者が、
この流れを企業の人員・目的・
頻度に合わせて移します。

実際の流れをそのまま社内で再現し、**制作を続けられる体制**をつくりましょう。

顧客理解は、実際の疑問を集めることから。

商談

比較で迷う点やよくある誤解

接客

使い方や選び方の質問

問い合わせ

購入・申込前の不安

利用後の声

期待と実際の違い

記録するときは、個人情報や秘密情報を含めない形に整理します。

現場の声が、**伝えるべきテーマ**を教えてください。

企画判断は、選んだ理由を説明できること。

対象

誰の、どんな場面に答えるか

要点

一番伝えることは何か

根拠

自社が示せる事実は何か

行動

見たあとに何をしてほしいか

採用しなかった案も理由を残し、条件が変わったときに見直します。

理由が残ると、次の企画も選びやすくなります。

品質確認は、好みを基準へ変えること。

伝わるか

対象者に要点が分かる

見聞きできるか

字幕と音声を追える

信頼できるか

事実・権利・条件を確認済み

行動できるか

CTAと誘導先が合っている

必須修正と改善提案を分け、判断理由を共有します。

同じ物差しが、**社内と外部の協力**を支えます。

進行管理は、作業と確認を切り離さない。

制作前

目的・素材・担当・期限をそろえる

制作中

進捗・待ち・変更を共有する

確認時

窓口をまとめ、優先度を決める

公開前

最終版と承認を照合する

公開日から逆算し、確認する時間も予定へ入れます。

段取りが整うと、**制作に集中**しやすくなります。

成果学習は、事実から次の変更を決めること。

事実

どんな結果と反応があったか

条件

予算・期間・対象・導線は何か

仮説

なぜ起きたと考えるか

変更

次に何を一つ変えるか

分からないことは分からないまま区別し、断定しないようにします。

一本ごとの記録を、**次の判断材料**へつなげましょう。

外部との仕事を、 社内に知見を残す機会に。

依頼時

目的と判断の
前提を伝える

提案時

選んだ理由と
代案を聞く

修正時

直す理由を
記録する

納品時

見本・手順・
素材の場所を確認する

振り返り

次回の条件と
仮説を共有する

成果物と一緒に、**考え方も**受け取りましょう。

能力が残ったかは、実務の変化で確かめる。

顧客の疑問を

企画へ変えられたか

企画の優先順位を

説明できたか

同じ基準で

見直せたか

担当交代でも

次の作業へ進めたか

結果から

次の変更を決められたか

本数だけでなく、負荷と判断の再現性を確認します。

できることの変化を見つけ、**次の学びを選び**ましょう。

編集を外注しても、社内の力は育てられる。

モデルケース

- 社内 | 顧客の質問から目的と台本をつくる
- 外部 | 構成の助言と編集を担う
- 共同 | 品質を確認し、公開後の反応を振り返る

実績や効果保証ではなく、役割分担の例です。判断理由を社内の記録へ残します。

得意を組み合わせ、**学びが残る**制作へ進みましょう。

90日で、残したい能力を一つずつ育てる。

0~30日

五つの力の現状と担当を整理

31~60日

少数の動画で実践し、理由を記録

61~90日

負荷と再現性を見て、分担を更新

期間は導入の目安です。制作頻度に合わせて調整します。

急に全部を変えず、**続けられる改善**を重ねましょう。

費用の見直しを、 社内の力を育てる一歩へ。

今日決める5つ

残したい
判断と能力

今ある強みと
不足する工程

各能力の
担当者と記録先

外部に求める
支援と知見

費用・負荷・
学びを振り返る日

ショート動画屋さんの内製化支援では、貴社に合う役割・手順・改善方法を一緒に設計します。
自社の内製範囲を相談する